

第2部ブレイクアウトセッション内容まとめ

グループNo	①コロナ禍における実習・演習・課外活動の実態	②制限された教育・課外活動に対する工夫や悩み	③その他
1	<ul style="list-style-type: none"> これまで行われてきた高校や大学における実習、社協主催のイベントやボランティア活動が制限されている 	<ul style="list-style-type: none"> 高校ではオンラインで施設と繋がり、介護過程のアセスメントを学ぶ授業の実践を行った。 社協では従来子どもたちと共に行っていた配食サービスの方法を一部変更し、子どもたちが事前に用意した手紙をお弁当に同封するなど独自の取り組みが話し合われた。 課題として、地域毎による感染対策に対する意識の相違、福祉教育を展開していく上での社協と高校との情報交換の機会創出などが挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> より一層の福祉教育広げるためには地域と社協、そして学校がその重要性についての認識を共有していく必要があるとまとめられた。
2	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士養成校であるが、実習不可となり代替授業を実施。現場の話を各専門職から聞くことや、車いすを利用し、近隣への外出体験等を実施。オンラインで施設見学を実施。 介護技術コンテストも中止となり、学内で発表の機会を設けて対応 地域に目を向け、「街中探検」を福祉教育の一つとして実施 施設に入館基準を設け、実習した高校もあった 	<ul style="list-style-type: none"> 初めはWEBでの操作等苦労もあったが、生徒とゆっくりと話す時間をつくることができた等のメリットもあった。 実習習得の難しさもあったが、座学での学びについての準備作業に多くの時間を要した。 新しい形での学びや、連携や情報の共有等を経験でき、今後も継続していきたいと思っている。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 施設での実習ができなくなり大切な現場経験ができなかったことに戸惑いを覚えたが、学生自身が考えて取り組む実習を校内で実施したことで、新たな学びができた。 介護の基本となるコミュニケーションを制限する必要があり、思うように支援ができない悩みがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオやZOOMを使った関わりを新たに実施。学生も感染予防に配慮した、様々なレクリエーションについて考える良い機会になった。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会では今年度はほとんどのボランティアが中止になったが、小規模でのボランティア活動や生活に困窮された方への食料配布、ドライブスルー方式でのプレゼント配布など、出来る範囲での活動に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会と福祉系高校がタイアップして高校生が手作りマスクを作ったり、一人暮らしの高齢者にメッセージカードを作成して配布を行う等、対面以外の方法で出来ることを考えて行った。 高校においては施設実習が全て中止となり、教員が利用者役・職員役を演じてのロールプレイや施設の高齢者に向けたDVDの作成などに取り組んだ。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 介護の実習についても、行かせたいけど行かせれない状況であったり、ボランティアについても希望がなかったりという状況がみられました。 ボランティアをどのように教育機関と連携するのかというのが社協の方の課題でもあるというお話も頂きました。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの状況は、お互いのフィーリングが合わないことが、あちこちに影響していて、こんな時期だから求めていること、求められていることをお互いしっかり確認しながらしていかなくてはいけないと感じさせられました。 Webツールも便利だけれど、いつか、みなさんと出会いコミュニケーションが取れる機会がくる日が来ることを楽しみにしたい 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 社協：通常の交流ができないことが多かった。サマーボランティアの募集ができず、福祉・児童に触れる機会が少なかった。地域の居場所づくりとして、近隣高校と連携した。 高校：例年より地域との交流は少なく、社協と連携する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 社協：小中学校における福祉教育では、子どもたちの福祉のイメージが「高齢者・車いす」ということが強く、このイメージを変える工夫・アイデアがあれば高校の先生に教えてもらいたい。 高校：高校においても、「福祉＝高齢者」のイメージが強く、広い福祉を伝えること、知ってもらうことを工夫している。高校生になると理解度は高まるが、低学年の子どもたちに教えるのは難しいと感じる。一つの方法として、高校生が小中学校に出前授業などを行い、大人ではなく、若い世代の人から教えてもらうことで、興味・関心・理解が得られるのではないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社協と高校の連携について、お互いに忙しいイメージがあり連携は簡単ではないという認識だったが、お互いに「つながる」ことに前向きであることがわかったため、今後は積極的に関わっていきたい。
7	<ul style="list-style-type: none"> 本グループでは高校（総合学科介護初任者研修実施校及び普通科選択科目実施校など）で福祉についての専門的な知識・技術を取り入れた学びを実践するためにはどうすれば良いかという悩みに対して、社会福祉協議会の協力を得ることが有効であるとの情報交換が行われました。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会は地域の住民のため、高校生など若い世代の協力を得るためには、どのように連携していくべきか良いかと考えていたので、良い機会となりました。また、コロナ禍でのボランティア実施の例として、高齢者へ配達する弁当の表紙を高校生に作成してもらったり、大学などリモートでつなぐ授業のコーディネート役を社会福祉協議会が行っているというお話も聞くことができました。 	
8	<ul style="list-style-type: none"> 福祉教育は小中学校への出前授業が多く、休校期間が明けた頃から依頼が増えた、学校によっては「講座はクラスを分けてほしい」などのリクエストがあった。また、高校ともつながりを持ちたいという意見もあった。 高校生と高齢者宅への宅配弁当にメッセージをつける活動を行ない、会議はタブレットで行なったと報告された。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校では、社会福祉協議会と連携して数回授業を実施しており、生徒たちの学びの機会になっている。 高校と社会福祉協議会は互いに一歩踏み出して相談してみることがつながるきっかけになると感じた。 	

9	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市社会福祉協議会では、例年実施している事業(24時間テレビの募金活動等)を行うことができなかった。 ・地域のボランティアの方々に協力をいただいている移送サービスや配食サービスでは、ボランティアの方々に健康チェックを行いコロナに罹らないように注意を行い実施した。 ・日本福祉大学では、コロナウイルスの関係で教育実習が秋の実施となってしまったため、教員採用試験の合格発表後の実施となり教育実習がやりにく感じた。 ・吾妻中央高校では、今年度介護実習を行うことができず、生徒に施設での実習を体験させることができなかったのが大変残念であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市社会福祉協議会では、ボランティアの方々の体調管理等が大変だった。 ・吾妻中央高校では、学校の休業中はオンライン等の設備が整っていなかったため、授業はすべて課題となってしまったため、十分な授業を行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動等を全く行うことができなかったため、今年度の反省を生かして次年度以降は課外活動を行っていけるようにしていきたい。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・例年の実習活動や課外活動の中止、オンラインによる講義など例年とは違う一年だった。それでも例年と違う実施方法により可能な範囲で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を行っていた際には体調を伺ったり、対面で受けられない講義はオンラインで行うなど、それぞれ工夫して実施した。やはり学生にとって実習はとても大きな経験になるため今後コロナの状況も踏まえて実施していきたい。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・実習は、短い期間でローテーションで実習を行っていた大学、すべての実習を中止した高校、実施場所により実習の有無が異なった学生の方 ・社協の方からは、ボランティアは一時中止しながら再開した場所があったり、在宅でできる支援等を実施した報告がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業では、いきなり始まり戸惑うことが多かったこと、レポートや課題の提出方法が異なる事、通信環境を整えることに課題があることなどが挙げられました。 ・学生さんからは、オンライン授業での講義での要望(もっと訴えかけられるように話してほしい)などのコメントをいただきました。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業を始めている大学では教員、学生がわからない中でもとりあえず使ってみて今ではそれが当たり前のカチになりつつあるとの報告であった。 ・社協もなんとか自分でできることを探しマスク作りや手紙のやり取りなど少しずつ活動が増えてきている様子であった。 ・介護福祉士養成の高校だけが実習はすべて校内実習に代替、校内実習も人形を使い、なかなか教育成果が上がっていないとのことだった。 		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での座学とグループワーク活動の組み合わせ。 ・ボランティア活動は、感染拡大地域は全面的に休止。一方、感染が少ない地域ではできる限り実施された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の実習等では受け入れ施設はごく一部であり、断られた施設が多かった。そのため代替プログラムを、施設と共同で準備しオンデマンドで配信をした。 ・高校では実際の事例(普段の生活を録画しアップする)を動画作成し、ラインでつなげる方法をとった。 ・社協とでは研修会の開催と、その動画の配信等の支援を行った。 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等の実施は難しく、外部のゲスト教員を招いての授業を行った。 ・高校1年生は現場を知らないまま進級していくため、オンライン等で施設関係者の話を聴けるように機会を設けた。大学生の生活も、社会に参加する機会に乏しく、隔絶されたような状態であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面でのグループワークができないため、googleのclassroomやjamboard等を活用し、意見交流のツールとして活用した。生徒の頑張りを発表したりする機会が少なくなったためモチベーションに響くのではないかと考える。 ・就職を控えた3年生は施設見学もできない場合があり、説明のみで就職先を決めてしまうことを恐れている。 	

14	<p>福祉系高校A</p> <ul style="list-style-type: none"> 校外での実習はすべて中止とし、その代替措置として動画を見る、映画を見る、介護過程の演習を行う等、校内介護実習を実施した。 施設の実習担当者に学校に来ていただき、講演をしていただいた。 <p>福祉系高校B</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月から実習を予定していたが、臨時休校明けすぐで準備が間に合わず校内介護実習とした。 同じ県内であっても地区によってコロナ対応の差があった。本校の所在地区は比較的実習の受け入れが可能な施設が多かったため、感染防止に努めながら施設実習を行った。 <p>社会福祉系大学</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度のここまでの校外での実習はすべて中止とした。 オンライン実習では施設に入職した卒業生からの授業を受けた。また、動画サイトで現場の様子を視聴した。 3月に今年度初めて、校外施設実習を行う予定。 <p>社会福祉協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士の実習を受け入れているが、例年とは時期を変更し実施している。 「社協職員と高校生が利用者宅等に出向く」という実習は実施できなかった。 小中高生対象の事業は多くが中止となった。 <p>障害者施設職員より</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護実習の受け入れをしているが、実習の要請自体が少なかった。 職場体験の受け入れは全て中止とした。 アウトリーチの実習については、実施することができなかった。 	<p>福祉系高校</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護技術はそもそも「密接」「密着」するものである。技術訓練は必須のため、工夫しながら実施している。 <p>社会福祉系大学</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインで授業を実施してきたが、果たして効果があるのか不明である。効果は今後現れてくるため、注目しなければいけない。 <p>障害者施設職員より</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護実習受け入れの際は工夫を行った。 健康カードや入館基準の提示、施設と養成校の行き来を省略し、書面での説明とした 	
15	<ul style="list-style-type: none"> 校外実習、行事をどのように実施、代替したか 学生が感じている遠隔授業の大変さ、授業資料を用意する負担 	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業における学生のリアクションがわかりにくい 遠隔授業のための教材研究 体が近くなるような授業の工夫(介護実技等の授業) Zoomを使用した交流での工夫や苦勞 	<p>学生さんがいらっしゃったので、教員側から色々質問をさせてもらう場面もありました。</p>
15	<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育実習では、時期がずれてしまい、8月から9月の受け入れとなった。特別支援実習では、中断する所もあり、学校での補講で実習を補った 教職課程の介護等体験では、老人施設の受け入れが完全になく、療育の施設で体験となった <p>高校</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者研修の見学や実習は中止となる。老人施設では、家族すら入れない状況の中、学生が実習としてはいるのは如何なものかという意見もある 実習の期間を短縮して行う高校も(生徒にコロナにかかった際の保険に加入してもらう)にあったが、実習を行う際、厚生労働省と文部科学省の通知が違い、混乱した。 <p>学生</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校との繋がりが曖昧であり、連絡が遅い分、どのような行動を取ればいいのか分からなかった。講義の授業のプリントを個人で印刷しなくてはならず、お金が何かとかかってしまった。 	<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠隔講義だと、生徒のリアクションが十分に把握できない場面や、リアクションペーパーの返答がしっかりできない点があり、生徒が分かっているのかが不明瞭 →遠隔になったからこそ新しい題材をYouTubeなどで探してくるなど、今までと少し違う授業スタイルへ移行した <p>高校</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の方と直接会えないため、同じ空間にいなくても可能なレクリエーションを生徒が考えた Zoomを用いたリハーサルや打ち合わせでは盛り上がったが、施設側の知識があまりなかったため、説明書を作るべきだと感じた 介護実技が難しくなり、練習は人形で行ったが、人形の数が少なかった。 生徒が小学生とzoomで交流を行った際、生徒の話すスピードが早く、小学生は理解できていなかったため、zoomで話す練習が必要だと感じた 	
16	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所作りや小学校等への福祉教育において制限が出てきた コロナ不安に関連した欠席が不登校につながった事例、休校における虐待の増加傾向が懸念される 介護実習やインターンシップが中止 	<p>社協と学校のつながり方の事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイハツ社員による福祉車両体験 高校生と一般の方を対象とした福祉教室 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉教育の活動事例を紹介してほしい(社協職員) ※小学校、中学校での福祉教育の実践が難しいと感じているため

16	<ul style="list-style-type: none"> ・職業実習中止のため経験が積めなかったため、就職活動が不安。 ・子どもの居場所づくり講座では人数制限をかけ、ネットから正しい情報を収集しコロナ対策した。 ・子どものゲーム時間数が増えている。 ・コロナの影響で3月から4月までの給食がストップ。 ・福祉学習において、食べる学ぶ、装具着用などの学習は中止になったり、必要以上に慎重になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の職場体験が中止。そのため働く人々が中学で講義をしに足を運んだ。 ・福祉学習では従来の学習内容だけでなく、災害を取り入れたスリッパづくりや毛布での服をつくるなど、災害が起きた際に対応できる技術を伝えることもできる ・外部に出かけられなくても、福祉車両などの福祉用具を学校に持ち込み内部を生徒に見てもらう方法もある。 ・介護施設に集まり、高校生と小学生で学び合う方法もある。 	
17	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習では、途中で学内実習に切り替えざるを得ないケースもあったが、1か月前からバイタルチェックをするなど、感染予防対策を充分行って実習を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMを活用することによって、分野を越えたつながりができ、学びが広がった。 ・地域では、集いの場づくりが自粛傾向にあったが、見守り訪問活動に切り替えるなど、つながりを絶やさない活動が展開した。 ・福祉に携わる人材育成の機会を包括的に確保することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や家族の感染に対する不安が大きかった一方で、介護現場等への就職を望む生徒が増え、現場志向が高まった。今後も学生と現場職員との関係性を継続して行えるようにしていきたい。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における職場での具体的な対応や対策、現状について情報共有ができました。特に、今までは当たり前に人と人が関わり、様々な取り組みが行われていましたが、今後はどのように繋がりを作り、事業等を進めていくかという課題が話に出ました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインが急速に進み、解釈の広がりをもどくように捉えるのかという課題にも気付かされ、大変有意義な会となりました。 	
19	<ul style="list-style-type: none"> ・支部の活動(サロン等)が中止になったが、マスクの配布や消毒のお手伝いなど、ボランティアの活動を行われた。 ・高校でのオンライン授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学での清掃活動 ・社協ではお手紙ボランティアや子どもの居場所づくりとして文具の贈り物(コロナ禍で自宅の掃除で出た未使用の文具を届ける)支援を行った ・余暇活動ができないことを介護予防教室参加につなげたい ・家庭クラブ活動では米寿の方へのプレゼント(健康棒、メッセージカード)を行った(高校) 	<p>1部を受けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが大事。 ・介護福祉士の資格を取ろうと考えている →福祉に興味をもってもらえることは嬉しい。 ・アルバイトの経験を聞く →世代の違う人との関わりとなった。(高校生) <p>2部の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうやってつながることができた。つながることの大切さを共有できたことに感謝。 ・大人とコミュニケーションができて良い経験になった。 ・福祉の仕事は多種多様。介護だけではない。 ・高校生活ではボランティアをしてほしい ・社会福祉協議会や地域とのつながりが広がっていけるといい。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習の対応として、「時期をずらして実施、分散して実施、一部を取り止めて実施、中止(校内実習)」と感染状況によって、県(原則中止もしくは学校判断など)や、学校種によって様々であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン実習での工夫点として、「実習前のオリエンテーションを実習先職員から受ける、実習先の職員向けの研修をオンラインで受講する、模擬面接の実施」が挙げられた。 一方で、「学校にWiFi環境等が整備されていない、ICTに教員が対応できていない」等の課題も挙げられた。最後に、教育や研修でのICTの限界と可能性について意見交流を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メリットとして、「学生と個別で課題のやりとりができる、障がいのある人にとっては参加しやすくなる、他県の先生とつながれる、対面とオンラインを組み合わせることで可能性が広がる」が挙げられた ・デメリットとしては、「ゼミの雰囲気は温まらない、名刺交換やちょっとした雑談、オフ会などができないのが残念(フィードバックを大切にしたい)」等が挙げられた。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習については、ほとんど実施することができた。実施が難しかった介護実習は、校内実習として実施した。 ・例年、小・中学生向けの体験学習をしているが、今年度は、学校に出向いての指導はできなかった。また、ボランティア活動も減少傾向にあった。 ・オンライン授業や講義が辛かった。人と直接会えないことに辛さを感じた。 	<p>高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内実習では卒業生との連携し、オンラインで施設の方から話を聞いた。 繋がりのなかった人との繋がりができたのはメリットだった。 ・オンラインでできること・できないことの線引きを教員側が意識して行う必要がある。 <p>社協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の貸し出しを行い、各学校で福祉体験を実施してもらった。今後は動画の作成も検討している。 ・様々なニーズに合わせた代替案の模索、社協同士で連携し、情報共有した。 ・指導用のガイドブックを作成した。 ・全盲のギタリストの方と一緒に、楽曲を作って地域で流した。 ・老若男女問わず、コロナ禍でもできるような環境をつくりをしていきたいという結論となった。 	

22	<ul style="list-style-type: none"> ・実習可否の対応に違いがあった。 ・サマーボランティアやサロンは中止、公民館での活動も制限された 	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーボランティア: 時期を限定せず、募集して活動した。 ・サロン・公民館での活動: 自宅でのエクササイズを紹介した冊子の作成・配布、幼児向け動画の作成・配布。 ・授業: 対面が制限された際、紙にコメントを書いて回すことで意見交換。 ・実習: 教員を利用者に見立て、校内実習・介護過程を展開。 ・悩みに: アセスメント力を身に付けさせることが難しい。高校生から「実習に行きたい」と声がある。座学も含め外部との交流を安全・安心に配慮のもと積極的に進めていきたいと意識を共有した。 	
23	<ul style="list-style-type: none"> ・高校では実習ができず、介護予防サロンでの交流の計画も中止となった。但し、郊外など地域によってはインターンシップが出来たところ高校もあった。 ・授業の中で認知症サポーター養成講座や社協職員による講話を実施して、地域のニーズを教えてくださいたい機会を創出した。 ・実習施設でもある障害者施設のクッキーの売り上げが減ってしまったため、高校生が広報や販売を手伝う等のボランティアを行った ・社会福祉協議会においては、2学期以降に福祉教育の依頼が集中し、これまでと形態を変え、分散して授業を行った。 ・高校ボランティア部に学童保育でのボランティアを紹介し、ボランティア部以外の生徒も参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の福祉教育で、クラスターが発生した施設にメッセージを届ける活動を行った。施設とリモートでつないで、反応がフィードバックされるように工夫した。 	
24	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育の一環で施設にボランティア活動へ例年行っているが、今年ではできなかった。 ・初任者研修(実習)ができない。前年はできていたが、今年度できなくなってしまったことも多い。昨年教えられなかったことを今年は別の形で伝えられればよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設体験の代替として、学校へ福祉施設に勤務されている方に来ていただき、施設の様子や仕事内容を話していただいた ・ZOOMを使って施設利用者と交流した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が何を求めているか分かれば、一緒に考えていくこともできるので、連携を強化していきたい
25	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての現場実習が中止となり、校内実習に変更した。施設職員や卒業生を招くなど、外部の方にも協力していただいた。 ・現場実習はできなかったが、1日(4時間)だけ見学を設けた。 ・オンライン導入は試行の段階 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習は全て中止。施設側からのアプローチあったが断った。 ・介護実習用の人形が不足しており、財政的にも苦労した。 ・施設で行われている介護の様子を見る機会(オンライン)を作った。次年度は特に、生徒に対して「触れて」学ぶ機会を担保していきたい。 ・外部講師を招く機会を多く設けた。今後はリモートで現場と生徒をつなぐ機会を設けていきたい。 ・クラスを分ける、部屋を広く取る、用具を多く用意するなど、できること範囲のことを行いつつ授業を行った。 ・分散登校/授業をした。職員の負担は大きかったがやり遂げた。 ・国家試験対策は質を保つことが難しかった。 ・ICTへの対応を模索している。専用の部屋を作る予定。施設職員とのやりとりリモートで確保していきたい。 	
26	<ul style="list-style-type: none"> ・実習については学内実習に切り替えざるを得ず、利用者とのコミュニケーションなど実習でしか体験できない機会が奪われたことが残念であった。 ・社会福祉協議会では例年地域に向けた福祉教育を行っているが、行事そのものを中止にせざるを得なかった。ただし小学校での認知症サポーター養成講座の開講など工夫して行えるものは実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策のため高校も大学もオンライン授業が導入されている期間があり、生徒・学生、教員ともに適応することに時間がかかった。特に生徒・学生と教員の対話など双方向の関係性を構築することが難しいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、コロナ禍における教育を充実させていくためにはZOOM等のオンラインツールを有効に活用できる力が必要となる。